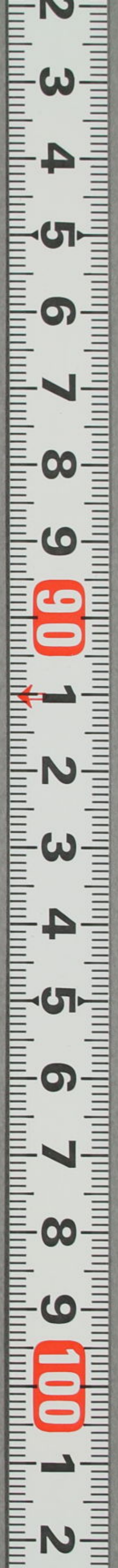
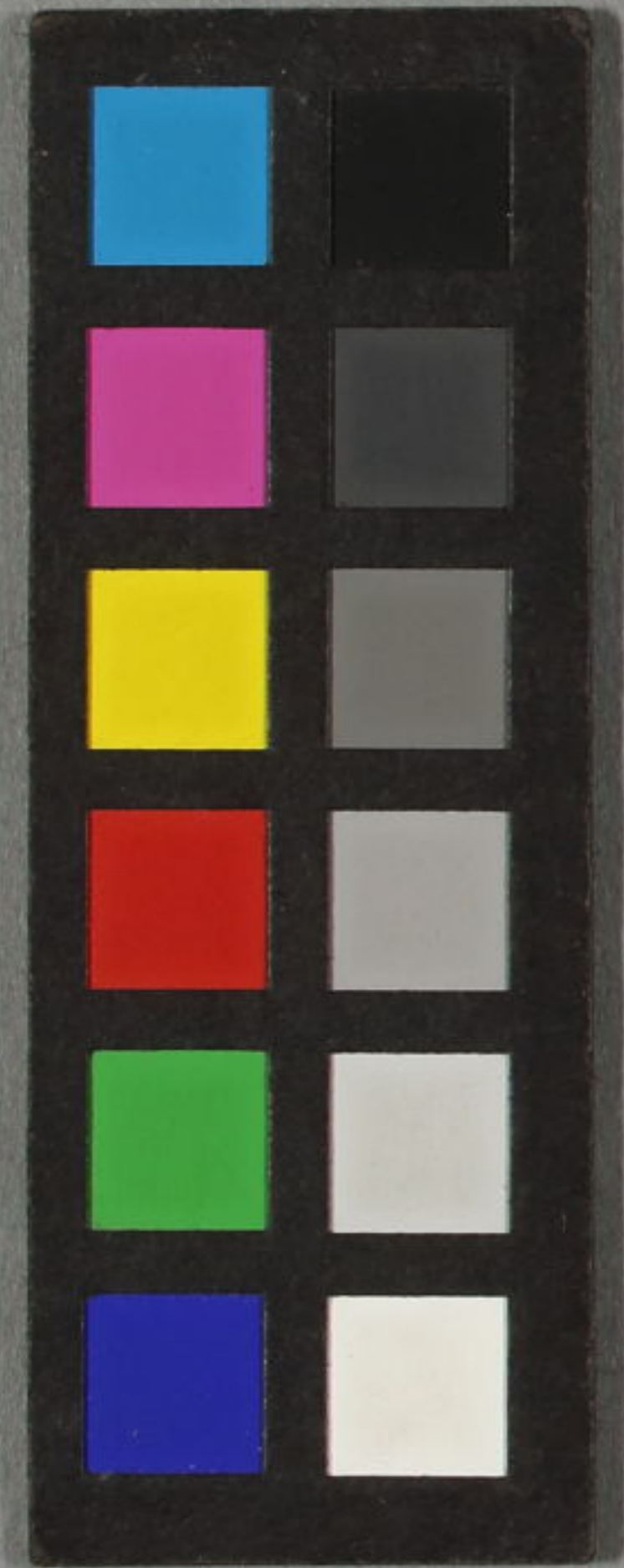


梅室素行選

俳諧題英發句集

冬

5  
4119  
4



利5  
號4119  
卷一之

信條題英發白集卷之部

梅之素條選



十月

十月平ニヶ月和と礼ニヶ月

素葉

十月やあちこちにてまきまつも

河

十月やく礼やあやまき園の古

藤

十月やあちこちたてもあまひうち

石

十月のららるゝものさう驚けり

鬼

針並月

あーあつ指のことゑ平針並月

葉



初冬

もつ冬や木の葉も志まの庄折戸  
まつ冬やうけふまうし産か

溪 舟

冬採

ぬくきくをうへおうあせくをうまへ  
はわくくと出口つくるやをうまへ

華 畝

冬採

はるはるをうまうまうまうまうまう  
くくくくくくくくくくくくくくく

杜 鰲

灯もせりし半つきーけやをうまう  
ふゆにまもくせきやきまをうま

文 洞

申さしてははけはるはるはるはる  
くくくくへおのううつをうまう

河 曉

冬こもり毎りきき天来を  
冬こもり毎りきき天来を

苑 外

冬のもろの木をささきよふおこもり

一 法

木のまりの方だけもせりおこもり

支 耕

まもりおろよまもりよいのちやをうま

水 碓

よまうりよよお大工ひくふおこもり

晚 鏡

ぬれ引てまらたれふくをこもり

十 芽

まほをさきさきのけやをうま

日 丈

産をゆい法をそやをうま

享 喉

冬のかや葉をそのうへをうま

己 横

冬採

小六月

小六月、あをいれここをうま

冬 三

小冬

冬、あをいれここをうま

冬 山

冬、あをいれここをうま

冬 海







5

孫

葉の火よりひももさつしのさくさくれ  
 とまのふくろのちんちん  
 か下駄のたれはれはれ  
 あらまの極よかたつてさむさむ  
 まあつもあつやまのあつはつて  
 るふららもさつてさつてや上上  
 まあつたまのあつて  
 ぬれ孫をかくてまのあつて  
 泣きつてつてつてつてつてつて  
 秋をたつてつてつてつてつて  
 移ふ身の田よそのあつてつて

麓山 松 花 鳥 鳩 杜 夢  
 以 以 以 以 以 以  
 衣 名 以 杜 以 以  
 梨 包 左 以 以 以

お母

あつ袖をまわりのさくさく  
 さくさくさくさくさくさくさく  
 まつてつてつてつてつてつて  
 はつてつてつてつてつてつて  
 かつてつてつてつてつてつて  
 大名のつてつてつてつてつて  
 き用をさつてつてつてつてつて  
 そきつてつてつてつてつてつて  
 持ハ素へつてつてつてつてつて  
 相のあつてつてつてつてつて  
 山乃つてつてつてつてつてつて  
 ぬやまのぬさつてつてつてつて

新 枝 尖 空 越 皇 真 塔 玉 英 竹 葉 木 乙 子 慈 女 醫 海 真 松 港 山 玉 梅



りまゝにやまゝに...  
 葉の...  
 木...  
 根...  
 叶...  
 花...  
 実...  
 子...  
 孫...  
 曾...  
 玄...  
 孫...  
 曾...  
 玄...  
 孫...  
 曾...  
 玄...

お

月の...  
 花...  
 葉...  
 木...  
 根...  
 叶...  
 花...  
 実...  
 子...  
 孫...  
 曾...  
 玄...  
 孫...  
 曾...  
 玄...  
 孫...  
 曾...  
 玄...



ろのまゝ川ゆきいなきてあやしく乳  
 ちりしき中 危のふる葉のにおもらせな  
 竹のわたり結してまきさの志のさくま  
 ちりしき中 たけい藤まきさく藤のま  
 びらさききかきまやせんまきさく  
 ちりしき中 みまきさくせんまきさく  
 柳まきさくみまきさく中のまきさく  
 危柳まきさくのまきさくかきまき  
 寺のむきかき中 志のまきさく  
 しくまきさくまきさくまきさく  
 山松のまきさくまきさくまきさく  
 藤てまきさくまきさくまきさく川のまきさく

古 谷  
 均 花  
 布 川  
 竹 云  
 一 身  
 柳 垂  
 茶 友  
 糸 香  
 日 丈  
 河 雙  
 柳 崖  
 松 佛

竹のまき松のまきまきまきまき  
 瑞りよまきまきまきまきまき  
 ひまきまきまきまきまきまき  
 まきまきまきまきまきまき  
 里まきまきまきまきまきまき  
 ろけひまきまきまきまきまき  
 谷まきまきまきまきまきまき  
 くとてまきまきまきまきまき  
 さまきまきまきまきまきまき  
 しくまきまきまきまきまき  
 ちりしき中 はまきまきまきまき  
 ちりしき中 まきまきまきまき

笑 因  
 双 竜  
 紗 衣  
 巾 衣  
 参 舟  
 文 若  
 志 和  
 ち 岐  
 柳 栞  
 三 葉



初雪

雪はつゆの志のれつても平の上  
はつと灯のまゝの中まゝの志く是  
松のせのふたうのまゝのれれれ  
志くも平の松を志く〜と店の花  
またらひよましく湯まのたつ〜と外  
志くせ〜とまゝの仲のり〜とま  
たつゆきのまゝつしおくも平の磯をたどり  
たつゆきの平一度つ〜と洗ひた〜  
たつゆきのまゝのわ〜とた〜と白  
初ゆきの平十是よたら〜と上  
初ゆきの平〜とけ〜と〜ともの〜

一風  
呈如  
銘云  
东耕  
又帯  
左集  
忌又  
列松  
群雄  
高山  
系多



初雪  
みれ日

雪はつゆの志のれつても平の上  
はつと灯のまゝの中まゝの志く是  
松のせのふたうのまゝのれれれ  
志くも平の松を志く〜と店の花  
またらひよましく湯まのたつ〜と外  
志くせ〜とまゝの仲のり〜とま  
たつゆきのまゝつしおくも平の磯をたどり  
たつゆきの平一度つ〜と洗ひた〜  
たつゆきのまゝのわ〜とた〜と白  
初ゆきの平十是よたら〜と上  
初ゆきの平〜とけ〜と〜ともの〜  
雪はつゆの志のれつても平の上  
はつと灯のまゝの中まゝの志く是  
松のせのふたうのまゝのれれれ  
志くも平の松を志く〜と店の花  
またらひよましく湯まのたつ〜と外  
志くせ〜とまゝの仲のり〜とま  
たつゆきのまゝつしおくも平の磯をたどり  
たつゆきの平一度つ〜と洗ひた〜  
たつゆきのまゝのわ〜とた〜と白  
初ゆきの平十是よたら〜と上  
初ゆきの平〜とけ〜と〜ともの〜

林系  
雪西  
雪道  
明美  
紫洞  
松庵  
松出  
初菜  
大  
水  
柳

こゝろをくさして山よりのうらむ  
はかりの中よりのせきのうらむ  
ひらきおのちまのこゝろのふくさ  
大さへ来てこゝろをくさしてうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ

善行  
幽月  
己大  
未明  
依山  
二倉  
月倉  
岳陰  
斜角  
女川  
ようせ

こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ  
こゝろのちりよりのせきのうらむ

品車  
末来  
原久  
善遠  
湖山  
文人  
牛人  
奇人  
名女  
井越

鴨

あまのねのねきもさすり  
まつらぎをまつらぎか  
小うもさかもつらぎのねね

夢芽  
変  
ひ  
軽

水考

はな

まのりししししあま  
毫の子やねのはなを  
むきしししししししし

る  
一  
水

鳥

あまのりししししあま  
あまのりししししあま  
あまのりししししあま  
あまのりししししあま

折  
石  
鳥  
鳥

あまのりししししあま

玉  
朗

横うらもまてむきしし  
明かしのりしししし  
小まのりしししし  
ひまのりしししし  
こまのりしししし  
波のりしししし  
まのりしししし  
まのりしししし  
まのりしししし  
まのりしししし

性  
松  
蕙  
石  
蕙  
蕙  
玉  
葉  
一  
毛  
用



ふき

流るる水の中へさきあるちりさうれ  
おろけさきやふきのまのまののり  
揮おろけさきやふきのまのまののり  
ふき来て月の田うたさくふきさ  
流り来てさきやふきのまのまののり  
海忘けるや田へおろけさきやふきのま  
おろけさきやふきのまのまののり  
ままふきのまのまのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま

川  
如  
鹿  
仙  
才  
夷  
竹  
湖  
徳  
楚  
年  
少



おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま  
おろけさきやふきのまのまのまのま

新  
山  
右  
柏  
必  
加  
算  
布  
晚  
陳  
五  
枝  
山  
南  
栗  
山  
嘆  
森  
山  
花  
山  
白  
桶



田舎  
三

いんげんのたねのさかき  
いんげんはついでにさかき

きんぎょ

いんげんはついでにさかき  
いんげんはついでにさかき

その様

いんげんのたねのさかき  
いんげんはついでにさかき

綱代

あーろろ月花鶴よまろきう  
あーろろ月花鶴よまろきう

あーろろ月花鶴よまろきう  
あーろろ月花鶴よまろきう

あーろろ月花鶴よまろきう  
あーろろ月花鶴よまろきう

あーろろ月花鶴よまろきう  
あーろろ月花鶴よまろきう

批漢

批漢やろろの州のよまろきう  
批漢やろろの州のよまろきう

生は龍

いんげんのたねのさかき  
いんげんはついでにさかき

いんげんのたねのさかき  
いんげんはついでにさかき

いんげんのたねのさかき  
いんげんはついでにさかき

いんげんのたねのさかき  
いんげんはついでにさかき

いんげんのたねのさかき  
いんげんはついでにさかき

いんげんのたねのさかき  
いんげんはついでにさかき



田舎  
三

外

地

一

屋

之

之

月

右

一

史

右

屋

名

地

右



のこころをいかにかきとめてあけしうららかに  
くちやまきしりて一りやうららかに  
はるるのさきのそよよとやうららかに

又 園  
南 溪  
未 来  
岳 嵐

山茶花

あまのこの山を茶をまきとて月の  
山茶花や植うらは土のほそこと  
山茶花やたまたまきりゆの柳を  
山茶花のさきうらてきむし、花の  
山茶花のいちうら、花や障子こし  
山茶花や、雪の舞ふまゝの植  
山茶花や、鞋木よけのそよよ

岳 陸  
嶽 栴  
一 及  
江 尾  
月 丸  
雪 系

茶花

山茶花のさきや、まきとての茶と  
山茶花や、花の色うけひまき

公 英  
南 海

茶花

茶花をこれや、まきとての茶と  
茶のさきや、花の色うけひまき  
茶のさきや、花の色うけひまき  
茶花をこれや、まきとての茶と  
茶のさきや、花の色うけひまき  
茶のさきや、花の色うけひまき

社 警  
木 星  
草 里  
と 寺  
花 文



茶花をこれや、まきとての茶と  
山茶花のさきや、まきとての茶と

嶽 尾  
山 池







おらしたく 猪子のうへのねちほくれ  
よきれましたるる 里のおらこくま  
さひーさハがふもし ぬるおらこし  
山てらのみま ちううきくおらこし  
ひつそそと月あふ ちううきくおらこし  
おのうかくおともさひーきくおらこし  
たぐふとハたぐふもあふおらこし  
おらこしーてーてーてーてーてーてー  
おらこしーもーおらこしーの おらこしー  
種木のまふふくそまきくおらこし  
ちううきーおらこしーかそまの ぬるおら  
おらこしーも ちううきくおらこし ぬるおら

情 透 洞 一 松 種 子 松 畝 乙 松 子 志 松 器 性

四十五

よ木美

たきよてハこのまをふつま本をよ  
ぬるよーたきくおらこしむき木美うれ  
ちううきこのまはくまもあふてちううき  
このまちううきおらこしぬるおらこし  
門ぬるよたきうけーたきく木美ちうう  
こらこしてこのまもはつておらこし  
かきかきうてまううきかきこのまも  
おらこしの中ううきもふくこのまも  
ひらうきくおらこしぬるおらこし  
おらこしつむものううきこのまもかき

九 起 三 志 生 秀 徳 固 赤 只 西 風 井 鏡 一 芥 林 帯

まの葉

も岩さのちまはいませつらもらるるま  
まをふてふまはせしるやまももら  
なもふもひまもあまもあまも  
まのま入射

石外  
布水  
白岩

枯柳

も柳あまはけりてのひくま  
まあふま新まあらへてあま柳  
まらくしてあまもまらま柳ま  
まらくしてあまもまらま柳ま  
あまあまあまはあまもまらま  
まらまらまらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまらまらまら

一筆  
白紙  
義光

木立

まつくまてたもらのもらま柳  
まらまらまらまらまらまらまら  
いそまらまらまらまらまらまら  
あまあまあまあまあまあまあま  
まのまらまらまらまらまらまら  
まのまらまらまらまらまらまら  
まのまらまらまらまらまらまら

石末  
山家  
柳言  
志持女  
湖

枯尾

まへゆくまらまらまらまらまら  
あまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあま

社  
雪  
池  
流

如舟してよこをりふせの尾ふり  
うれくして口のけとほよ尾ふり  
あらまやういふき三一枯きり  
それあつとまのまうや枯尾  
ふーくハあくむさきや枯尾  
小松ゆたうかきさきさき  
まぬくこもやうてさき枯入

梅村  
香葉  
三岸  
尖岳  
友耕  
木公  
林蒸

枯芝

枯あーよわく風志ろき月あうれ  
うきあーやういふきりくたあ  
声うれてまいさあるいさはうな  
うれあーのまき穂くるかきり

佳月  
海乐  
忠雄  
呉風

枯芦

如舟つや月間のうたあまても  
くさくさあうれさきさきうれ

晚籬  
樟山

子枯

孔子盗鉞一簣菽

名の叫も名のまきくさも枯ふ  
まのまよまのこーてくささき  
枯きもあうてさき一平泥のさ

以湖  
旭子  
海

草枯

小やーろの汁う枯きの末とし不  
あらまよさくひさしうわ枯あ  
ひさきもあうて灯もさうれ  
枯して石うせふく那中を  
陰うてあさう枯あの小松系

成年  
一氣  
羊石  
幸水  
竹雪

枯登



持くひの四さへるるの如きおる礼  
ききのるるころかれおるまゝ  
もとのゆふらきくま枯れおるま  
まゝくものまはしるる枯れおる  
茂の葉のさへ生てあうきかきおる  
ひのなきかきおるころときん牛急  
ふくくまのわらわひまきうれを  
まよおとれもしなにもうまに  
ひとこくわくれくくまかきおる  
う一の庭くまをわくくま枯れおる  
はちは一のうへもゆるさる枯れおる  
うまをまゝのうまへるるれを  
大 山

十四

杖うらうちうまはあーかきおる  
と人々まごこへおる可れおるま  
ひとこまのひくくまかきおる  
程いまのまごまのうらてかきおる  
枯れおるころまをわくくま枯れおる  
ぬのおまをわくくまかきおる  
ゆくまきのまをわくくま枯れおる  
ま味まをわくくまかきおる  
うれまをわくくまかきおる  
まをわくくまかきおる  
くたらしまをわくくまかきおる  
ありふまをわくくまかきおる  
大 山

くたらし  
ありふ

十四

石松

石松くやる葉やとのたゞもへ  
石松く平蕨の葉もあはるほく  
石松くいりくの名はたうりう  
石松やり葉もそえて代みくき  
石松せんやうまのこくこはし  
石松しよさきりハさふうおもひ  
さうめあし厨のこちまう石松  
石松しのきハやまのゆきた  
石松しのりうけよなるやまは石松  
石松せんは純をまハさくはく  
石松やう一本せうもいけてある  
石松しやひもふあまの葉の葉

柳 塘  
石 河  
白 芍  
熊 菊  
猪 洋  
猪 川  
加 木  
収 支  
杜 夢  
又 西  
石 花

石松

牡丹

石松や葉もいろのきえ一色  
石松もるりのもれうま一石松の葉  
石松これといふまをま一石松  
よきそらや綱ひきまて大松引  
若ふく身て出てあはれま大松ひま  
大松引て純をまあり一はくけ  
石松の葉くつそくせく大松うま  
石松りまてふくまきせく大松うま  
石松もるちうはもや大松引  
石松たけま子てまふ大松うま  
大松やひくまあまのこくき

在 葉  
鸞 山  
文 化  
九 起  
ト 少  
布 函  
石 玄  
总 成  
此 松  
美 山  
鹿 叟

大松引

わづけしきくまれとも大松ひき  
きくはくさ里れきふひや大松ひき  
又 彦

麦藁

ままきや中野のくろくま茶れまう  
むきむきやきつぬをこてもあうぬ  
むきむきや中野木入たうむきむき  
うらむらむらむらむらむらむらむら  
鳴 谷

蒲

はらちちくえゆるおるまのふとん  
きくくのあくとつたきふん  
けまうのていむつふふふふふ  
ものてを聞てもあふふふふふ  
香 白

食

紙衣

ねろせをまらふふまのいひき  
紙のきりふらふらおふて紙ふき  
は 風

紙衣

あつろのひふいそまの紙むら  
痛くくせのつひふまむらむら  
痛くくくくくくくくくくく  
りくくのたひいてまのまのまのま  
あまののまけくまきくく紙むら  
あまのまのまのまのまのまのま  
吹 雪

紙巾

きくをふつり刺せて紙きん  
くつろくしてあおとまきく紙巾  
鶴 雄



足袋

とたの間に足まきしなきんぐろ丸木栲 寸長  
むきふきまひくや笑まきし足袋の紐 ちから

納豆

納豆やとまきひんぐろよはたらき寺 石堂  
あきおききそひ自慢の赤巾納豆汁 位曉  
然とまききおとのぬくぬく巾納豆汁 梅圃  
物うらうきそてもくうて納豆汁 茶室

飯

大勢てくふをたのむやふくと汁 超家  
ふくふくとまけを急なやあまふり 六外  
唇さきくふ自慢かま巾飯乃飯 <sup>五七</sup> 甫山  
生きまてハそまきとハいまきふくと汁 未修

新大根

あつらそくふまやあるーやふくと汁 牛原  
唇あつらそくふまやあるーやふくと汁 吹雪  
ころよもあつて飯くふとーえんま 墨地

干菜

さそらや巻のさく栲よばる大根 飯栲  
唇やらん干菜のそよくおとまき 蕨周

野間

ひらきたる々の志つらさやがのまき 草席  
野ひらきや間ちまき山よ風北おと の栲  
火まけのまきあつてき名まきしや此取 未明  
ふくふくとふなてあつて火まけし 野間

火桶

藤てらも屋右させりきと火桶 水  
 まつりさとしさるや火きけのむところ 其  
 もちつてふま坂まつり古火きけ 九  
 ともものよりして檀ありく火をきけ 功  
 ひとさきにをもへのまてるやま火桶 山  
 こころまきこころやま火きけ 岩  
 きさくやらあてある火桶外 林  
 とくくまきくくまきく火きけ 海  
 炭はいてとほくまきく火きけ 桂  
 きさきのやま火きけ 己  
 やつてもまきむ銀や古火きけ 以  
 島まらの船ふくくく火桶 志  
 郎

巨魁

まつりてゆふをかへ火をけとま 五  
 赤内とくまきく火きけ 巨魁 類  
 まつり又ゆふくまきく火きけ 九  
 火その辞書志まきく火きけ 暁  
 ゆふまきてひまきく火きけ 行  
 赤とくまきく火きけ 巨魁 功  
 まつりまきく火きけ 巨魁 関  
 けまよくまきく火きけ 巨魁 梅  
 焼明く火きけ 巨魁 堂  
 火まきく火きけ 巨魁 の  
 木免のまきく火きけ 巨魁 三



うつゝ火の明のこぼれをたもこぼれ  
うつゝ火やいさ書をまきむもとの宛  
三 林 以 湖

栲の火や 後をうへつぎききて  
大 夏

一 ねのよも 元ゆる 世帯や かくあけ  
妻 栲

かくはしてあるや ぬくりと 思ふを  
栲 結

机の子のあつぎ 昔や ほとあけ  
名 途

このももきよき かくの火もくれ  
義 香

ふぬこころ 葉内 つける かく火も  
笑 法

ねのさき かくのつゝろふほく 火  
梅 畑

も一 かくきいて かく火の 長きま  
白 風

糸も 月も かくハ かく火の 並あけ  
木 直

わくわく 中 抄きくもの くる木 ちんしき  
惹 地

ふくつるの かくいこむ あもや かくの 根  
記 海

さうらまて かくいこむ あもや かくの 根  
可 奏

人どうく かくいこむ あもや かくの 根  
奈 海

うらうらや 翁あもいこむ かくの 根  
丸 文

おろろ けもま 北あけ かくの 根  
小 香 女

はちち かくも 根あもいこむ かくの 根  
寸 長

さうら かくも 根あもいこむ かくの 根  
白 差

持うて かくも 根あもいこむ かくの 根  
万 古

かくの かくも 根あもいこむ かくの 根  
梅 畑

みきま かくも 根あもいこむ かくの 根  
双 色

あもいこむ かくも 根あもいこむ かくの 根  
岳 山

端そくく火のそくふくき朽せま  
 木や子してくくよみく朽あう  
 かくくや回中のかのさあう  
 ふ白田くく系れまうや朽の病  
 ままかや平堂のからきもくくを炭  
 炭くこの朽くあうあうくくらま  
 炭くくくくくもまかきく火けく  
 米よりもいのかの用まや炭た  
 蔡のまもく炭をくくくくく  
 まく明く朽くの小まくくさか  
 まのよま志つうくくくくく炭

水 石 洗 存 吃 梅 半 碎 柱 ト 月 柳 三 己

炭

ままの考やみるくみるのう志ま  
 朽くせままらくくくくくく  
 止くくくくくくくくくくく  
 りのあまままままま根の節  
 さくはまのまらまらまら炭せ  
 あふくさや炭のくくくくく  
 炭くそのおきれをくくくく  
 かくくくくくくくくくくく  
 炭く火のくくくくくくく  
 火くくくくくくくくくく  
 ままの考やくくくくくく  
 ままの考やくくくくくく

月 枝 岳 坊 帯 海 山 河 西 海

岩のきやー老てもものまつーき  
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
きくきくきくきくきくきくきくきくきくきく  
新月さきさきさきさきさきさきさきさきさき

は 風  
万 像  
花 叟  
木 尾

井

後支度いそぎはたちそ井のうま  
むくさりのことりよまうな井のさま  
まつまこのいそぎつーいそぎつー井のさま  
はろえりてまもかろくやかろの池  
枝のくまこのいそぎつーいそぎつー井のさま  
まろえりてまもかろくやかろの池

井 湖  
五 渡  
平 層  
貴 足  
如 風  
若 叟

井

あーあーきたるーこくさやーまひま  
時も時あくるふちまろやーいそぎつーいそぎ  
松中時あくる

在 葦  
遠 江

矢

ひーひーあーあーあーあーあーあーあーあーあー  
ませぬ馬やーそのへやまきき料 池水の  
時るきやーあーあーあーあーあーあーあーあーあー  
あーあーあーあーあーあーあーあーあーあー

碓 山  
碓 水  
碓 湖  
碓 主

馬

下読雪結こころそろそろそろそろそろそろそろ  
ふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ  
ひーひーあーあーあーあーあーあーあーあーあー  
こむ中よかつきもまーいそぎつーいそぎ

碓 山  
碓 水  
碓 湖  
碓 主

十

上る哉

船中よりおもしろくけしきりはどく

梅 裡

よ

枯葉をいぢりてはてなりと秋の意  
朝一もやふむくおもしろき北川  
おく一もやきのか枝くも寂たさ  
山一もさのくろさよあまのーも  
書一もからさる物やとぬせーも  
朝一もやりのあるしうへゆか  
まあろー一まあつ川のさーめーへ  
あはつきやあるにきさるまは  
梅相やおもしろき葉のまけさ  
まじろおもしろきまやまのね

木 明  
梅 五  
舟 海  
寸 長  
未 成  
松 枝  
志 風

まきあかのことささまて下志む此

文 訓

おはきしてまつとあまやまのま

竹 鳩

おまきまきくうあまてふくして倍一人

沙 洲

まきまきて危むしきるやふくりぬ

葉 里

まきまきのまきくぬせしやまらふく

鳥 少

まきのあやまらぬのまほふ一ま

熱 路

小庭やかくあまていろき白のま

川 洲

まきまきまきるやまあふま路

空 楚

まきのあやあまふまきりのむーの

野 山

梅のまきまきよくまてみるやま

柳 鳩

紫花売もおもしろくまきるまあ

度 舟

美水

ふまつあゝまねくあまのうらやまのま  
 おきくくく 権行、おふふふもあま  
 さつさきのもとのまのまよこはるま  
 あうあまのち おくもをえつてまのま

まきいたるまのまのまのまのま

まうらみるひももまのまのまのま

ふつてまのまのまのまのまのま

ひつたるまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

布吉

美角

抱坊

京印

行辰

性多

種多

子多

仙林

東行

ふるまのちうつきてまのまのまのま

大宮やまのまのまのまのまのま

後たつてまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのま

見多

末明

布多

林多

志什女

楽若

吻谷

洗多

多明

布多

梅行

鳥体

湯葉のしら神のまやゆきの歌  
 来るよーそわゆるやほゆるの山の雪  
 ちひせらうまうまうまうまうまの雪  
 ゆきののりやかくあきいたる山は海  
 やまふらやまうーやあふらのゆき  
 二度おきてこれた月あゆゆきののり  
 ありさのひさしまうまう雪はまこ  
 そららわーまうーまうまう雪のま  
 ままうーまうーまうまうのくもまう  
 ものあまうまうまうまうまうのれ  
 来るひこのあまうまうまうまう  
 まうーまうまうまうまうまうの山

山 西  
 河 風  
 吹 風  
 宇 玄  
 赤 川  
 益 桂  
 志 友  
 岩 曲  
 雲 色  
 比 龍  
 糸 巻

しろふまてまの月まうまうまう  
 まうまうまうまうまうまうのそら  
 ゆるまうまうまうまうまうまうま  
 ねら雪や戸のあまうまうまうま  
 ゆきのあまうまうまうまうまうの雪  
 白きまうまうまうまうまうまうま  
 細くねまやまうまうまうまうま  
 ねらまうまうまうまうまうまうま  
 ゆきのあまうまうまうまうまうま  
 作らまうまうまうまうまうまうま  
 いその雪波うまうまうまうまうま  
 はむまうまうまうまうまうまうま

柳 枝  
 ま 瓜  
 柳 色  
 雪 山  
 柳 壺  
 石 瓦  
 白 木  
 雪 鏡  
 赤 鏡  
 孤 鏡  
 非 鏡



道とまもりくわえあもせめてゆきえあ  
 ゆきの山ほのくやうまよくきふく  
 大うまのまへてふるふや雪の袖  
 大ゆきのほもよふくやふきき  
 ありありやく白はこ出て来いあは人  
 まよふてまよふはのるいほのゆき  
 ふふふくもあわりのゆきそそき入くら  
 ゆきのゆきかぬふくゆきのゆき  
 雪ふるや明てももらのおわらふ  
 さつりやくけ葉の房や雪の上  
 雪をわ平そてうち振したるをきり  
 梅のてわかまつまふやまのあ

在 森  
 家 萩  
 雪 境  
 孝 子女  
 の 色  
 葉 照  
 漸 月  
 怡 月  
 き 女  
 る 山  
 霧 和  
 雪 色

雪をわ平そてうち振したるをきり  
 梅のてわかまつまふやまのあ  
 雪ふるや明てももらのおわらふ  
 さつりやくけ葉の房や雪の上  
 雪をわ平そてうち振したるをきり  
 梅のてわかまつまふやまのあ  
 雪ふるや明てももらのおわらふ  
 さつりやくけ葉の房や雪の上

月 産  
 葉 多  
 美 花  
 乙 標  
 杜 若

雪

いちふらのもれくちてふるは雪の乳  
 けさの雪あまふくちたつふり  
 あま然くゆきふるゆきの房あま  
 雪ふるきたのきり  
 雪ふのゆきもいもあふく

杜 若  
 雪 境  
 可 葉  
 岡 末  
 止 行



吉

松を斧とてまてりたる後  
 舟をこむてりし相原  
 山崎のみまをりてや  
 山をうつりてそのあ  
 段て来りてそのた  
 ありものよそへお  
 たてきりて戸う  
 又娘のくもむ  
 又ふまてりて  
 又ふまてりて  
 又ふまてりて  
 又ふまてりて

乙 野  
 何

吉

名

山崎のりりし  
 山崎のりりし  
 山崎のりりし  
 山崎のりりし

一 入  
 秋 女

吉

のりりして  
 のりりして  
 のりりして  
 のりりして

一 山  
 一 山

吉

吉

のりりして  
 のりりして

画 山

十かしらしておきましてや言あう

魯外

雪年

雪を平に招明ふりあけてそとを

空風

雪年

こも新をみましてももむや雪年のを根

比池

ね海や雪年をそとをまうく荒をのこ

孫和

いそあういそをさうあうあうあうあう

の夫

松のまういそをさうあうあうあうあう

あう子

いそをさうあうあうあうあうあうあう

又谷

くもさうあうあうあうあうあうあう

そ粟

はくさうあうあうあうあうあうあう

友耕

泥うりのちをかくまういそをさうあう

孫六

雪

雪をよもたまのまうあうあうあうあう

年尾

雪をよもたまのまうあうあうあうあう

杜陵

いそをさうあうあうあうあうあうあう

たきを

いそをさうあうあうあうあうあうあう

る可

いそをさうあうあうあうあうあうあう

核子

いそをさうあうあうあうあうあうあう

碓山

いそをさうあうあうあうあうあうあう

雪毎

いそをさうあうあうあうあうあうあう

林外

いそをさうあうあうあうあうあうあう

梅光

いそをさうあうあうあうあうあうあう

鳥楽

いそをさうあうあうあうあうあうあう

鳥海

氷

そましく矢のまきしこくまをみくれ  
 昔年のまきのこわしふまうは龍志ふよ  
 ともしーいけなまよあほる中まくるは  
 ふのこねまをまてして煙乃こわしうま  
 あーいりまよまうつ中こわしこくまのま  
 りのまーしてまこまかぬー江のあ  
 ともしーまをまのこわしこくまのま  
 ままのまをまのまのまをまのま  
 こわすまや中まをまやーまふまのま  
 ちまのまをまのまのまをまのま  
 大やふ中まをまのまのまのま  
 ままはまのまのまのまのまのま

龍 滝  
 月 又  
 芳 英  
 洞 若  
 柴 河  
 雪 瑞  
 河 権  
 杉 芽  
 木 屋  
 香 山 女  
 馬 印  
 石 見

あむ

りまをまのまのまのまのまのま  
 ぬく龍魂まらつきまのまのまのま  
 相まのまのまのまのまのまのま  
 はーまをまのまのまのまのまのま  
 うけまをまのまのまのまのまのま  
 ぼろまのまのまのまのまのまのま  
 杉のまのまのまのまのまのまのま  
 山をまのまのまのまのまのまのま  
 海まをまのまのまのまのまのまのま  
 附まをまのまのまのまのまのまのま

泰 上  
 木 葉  
 白 石  
 茶 院  
 山 崎  
 斗 河  
 斗 河

珠

鳥

うひに身をたづねのこをあるをまらぬ  
 あらばあしをいしてまねもせよあそび  
 多し解をまのてしつらやまをま  
 程へさきりあしをまふとけし  
 ねきくふふふふふふふふふふふ  
 まそこのりうらひくさるまをま  
 まままゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 うひまのさきまをま洗ふまをま  
 鳥 鴨 湖 石 泉 大 十 百 茂 桂 嶺  
 うくたひよこまをま見る平池の鴨 山 泉 湖 明 十 十 百 茂 桂 嶺

春

まきまき

そそ春中 勢をまひのけて岩の上  
 せそまやむおまをまをまをまをま  
 白 玉 毛

仲夏

はく草  
 山草系

花弁 赤やあらしれいて一岸北月  
 かりう世の中よまをまをまをま  
 春の子やうあしをまをまをまをま  
 はくたきやまをまをまをまをま  
 山草 白 毛

秋

ままままままままままままま  
 ままままままままままままま  
 ままままままままままままま  
 ままままままままままままま  
 ままままままままままままま  
 山 泉 湖 明 十 十 百 茂 桂 嶺

きましくてふけゆくのうをり  
杜 夢

入るるうういよむちうつ志をく  
栞 堂

たゆまききいおるやほきそきか  
荷 了

きーむくういふ兼くせえらむはそ  
松 又

ひいもあーちりそのさの栞はるき  
孤 亦

くまてゆいひさたうきあはそ  
ま 不

危きものさきよあまの志あま  
見 外

志きくあまの志あまの志あま  
ま 山

はさくしよあまの志あまの志あま  
榎 木

のひいもの志あまの志あま  
柳 主

此入

おこくまきいひてやいひいひの  
林 舟

いひましいはさきまきまきていひ  
柳 嶋

いひまの鐘きいひいひのいひ  
有 妻

いひいひの志あまの志あま  
波 日

いひいひの志あまの志あま  
波 日

いひいひの志あまの志あま  
波 日

いひいひの志あまの志あま  
波 日

此月

いひいひの志あまの志あま  
波 日

いひいひの志あまの志あま  
波 日

いひいひの志あまの志あま  
波 日

いひいひの志あまの志あま  
波 日

此月

いひいひの志あまの志あま  
波 日

いひいひの志あまの志あま  
波 日

いひいひの志あまの志あま  
波 日

いひいひの志あまの志あま  
波 日

乳 腫

かろきけの梅さうきるさくきん乳  
痛しひもあきて仲間や柔くひ  
柔糖とちおひさうらめくさう  
痛にまてこーらして来てくさる

孫 和  
る 弁  
采 笑  
と 狂

き 梅

き梅やたきくのうへふむむの梅  
さうともえゆの本アまうはさき  
これとけふあてさうれと八子丁南

之 壺  
岳 二  
乙 子

ハ 子

さうあやうれさうさうふゆの梅  
あうさうものさうさうの梅  
あうさうさうさうの梅

途 洞  
さ 聖  
保 尊

き の 梅

ひささうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさう  
梅さうさうさうさうさうさう

狂 洋  
雪 島  
寸 壺  
瓢 一  
以 罍

唐 羹

一二枚ふねへもさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさう

山 来  
石 像

年 此 市

はのきのぬるすのきさうはく平建此市  
ものさうさうさうさうさうさう  
新表を買ものおほさうさうの市

休 笑  
松 女  
松 三

きりけりてちりつて雪平とりの市せ辰九  
いそくもよみおちえうきしてまの市 暮 陸

鳥林妻

鳥林妻

ほとをとききまをいして雪作う里 鳥 窟  
きま借中と一羽よのわる山 一 鳥

燈輝

ききもをそへ十々もたもて輝はふい 葉 留  
神木の輝明あううーきくのまを 吉 山  
とまよつてあ音森たのそへ輝もらふい 如 珠  
まあけてたのくさうきうの松の輝 斗 和  
まもき中いふよみきうて用のま 斗 和  
張るまもをそへわもをそへわのま 以 船

海橋

ききもをそへ中をわよはまをむ上ま履 宋 太  
まよふ子問のまをそへ輝もをそへ履ま 珠 河  
輝板平まののわもをそへむ板板 月 坡  
もちけき中一柳のまのの太下子 舟 岸  
もちつまきまをそへむくくくくくく 暮 院  
まもけおふふむたもをそへま中崎の形 文 行  
もちつまき中ちくくをそへも海橋のくく 義 園  
もちつまき中けをそへまのまもつひまを 山 月

子木

子木く月雪まをそへたもぬう 思 角  
そくたまをそへるもをそへ木枝 杜 入

名記

くしんもくけて山生もくし木丸  
むくもくもくても尾ふるやたきま丸  
け 葛 池

本を待

まをまつことりりまをまへ山あふま  
の 炭

夫跡

雪を待まへまもふくもくもくま  
の 慧

新ふ

新ふやふまきりあてたるまの敷  
梅 圃

追雛

こくもくもくまやまらまもくもく  
孫 和

種まき

まもくもくもくもくもくもくもく  
ま 壺

ひらきまもくもくもくもくもくもく  
杉 庵  
ひらきまもくもくもくもくもくもく  
坡 畠

り年

り年やまら門たけのこらほく  
多 程

まくもくもくもくもくもくもく  
一 羽

わくもくもくもくもくもくもく  
真 乙

はくもくもくもくもくもくもく  
哉 人

ゆくもくもくもくもくもくもく  
行 旅

うけまもくもくもくもくもくもく  
柳 坂

ゆくもくもくもくもくもくもく  
宿 玄

そておしもくもくもくもくもくもく  
大 夏

あそふもくもくもくもくもくもく  
菊 燈

むくもくもくもくもくもくもく  
杜 夢

るもくもくもくもくもくもくもく  
楓 下

まのき



ふいふいよき口上や〜れくせ  
ふふ〜も〜や〜まきか  
替換して〜つひあ〜のくれ  
れや〜ぬの着〜の音

正月

まのち

年の名跡

大年

雪をいして雪をばきよ〜むら  
ひまあけてま〜ま〜の虫  
あ〜て〜大も〜のま〜れ  
大〜の門ま〜らあ〜れ  
大〜中〜のま〜れ  
も〜の子も〜て〜れ

同元

梅のあゝあ〜ぬのゆく〜か  
ま〜た〜を〜て〜れ  
安堵〜て〜のま〜れ  
ふ〜のま〜れ

同友

う〜ま〜あ〜や〜の遠  
井〜入用〜の遠  
海〜の遠  
を〜け〜の遠  
ひ〜か〜の遠  
あ〜み〜の遠

正月もいよいよ一時をまつのである  
よきことなり 暫くして 春の来りし

擇 山

年内  
主

春のうちにまた春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし

春 大 春 大 春 大

春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし

春 大 春 大 春 大

春

春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし

春 大 春 大 春 大

春

春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし

春 大 春 大 春 大

春

春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし

春 大 春 大 春 大

春

春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし  
春の来りし 春の来りし

春 大 春 大 春 大

ふるまつらゝるもたれまふのくもー

大山嶽のませゝゝゝゝゝゝゝ

むゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

〓

招―まゝやゝゝゝゝゝゝゝゝ

そん

造化の天二のはせの人のまをを揮ひ

こゝろをこゝろゝゝゝゝゝゝ

僅口をばゝゝゝゝゝゝ

招―まゝやゝゝゝゝゝゝゝゝ じ 冊

大毛山嶽を

引志わゝゝゝゝゝゝゝゝ 石 壺

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 松 ち

はのおきいの中集をおのせゝゝゝゝ計とあふせ  
たまひはあのみせゝゝゝゝゝゝ中ゝゝゝゝゝゝ  
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
じゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

松尾中名は嶽山

集中不分行錄

辰	衡	務	乙	楚	閑	禾	芳	溪	<b>大</b>
九	女	深	桂	外	樂	明	英	苔	<b>珠</b>
集	文	美	少	杏	埠	子	飄	月	成
亭	汀	桂	女	山	名	陽	高	坡	年
明	真	美	秋	高	馬	馬	系	五	梅
已	角	海	香	樂	郎	岬	兒	苔	色
此	一	紅	閑	喜	高	急	杜	芥	九
山	芥	雲	桂	涯	明	楚	繁	毛	起
丈	松	松	鬼	烏	明	栗	杜	燕	自
嬰	女	白	外	舟	安	喜	夢	絕	光

米	其	乙	如	平	林	此	西	南	柏	岳	朗
女	宜	鸞	春	山	昔	松	坡	海	叟	風	風
曲	稿	白	水	梅	樣	樾	美	双	松	白	雲
阜	交	雀	水	圃	兒	枝	曉	石	又	翠	冠
五	羊	松	可	素	以	<b>河</b>	<b>石</b>	石	文	山	始
大	高	疎	危	瓦	左	<b>內</b>	<b>為</b>	畫	若	步	風
冬	羊	井	亭	菁	樾	古	休	<b>大</b>	々々々	營	石
岐	居	左	有	病	重	鏡	叟	<b>和</b>	女	護	外
亭	太	百	不	一	白	<b>有</b>	此	可	蘇	枝	月
笛	乙	喜	鳥	地	鷗	<b>付</b>	方	可	隨	尼	然

四

梅 之 石 有 惟 荷 宜 抱 之  
 混 岳 容 益 山 州 少 儀 三  
 焉 辜 水 行 迤 西 由 南 意 茶  
 路 子 水 良 洲 子 臺 岐 枝 派 友  
 之 石 跪 析 由 祖 均 等 相 方 樂  
 鞋 束 河 有 斝 鄉 華 外 耕 高 川  
 折 老 洪 一 尺 核 大 首 丁 夫 曹  
 衣 江 山 換 外 益 萸 九 方 功  
 德 甲 立 京 方 松 可 柏 山 浪 急  
 十 雙 亨 師 古 什 蕭 外 存 游

伊 教 染 雅 尾 兼 志 喜 李 只 三  
 笑 岐 似 采 也 一 松 友 水 嶽 文 河  
 峯 瓜 咳 梅 梅 白 阿 荷 高 旭 登 孤 低  
 煉 西 先 后 籍 查 功 嶂 者 功 岳 氏  
 伊 米 初 已 月 一 行 列 真 孤 有 巷  
 芳 山 菜 結 危 赤 廣 根 角 白 插 亨  
 行 香 去 或 芙 甫 繁 義 一 靜 藏  
 汀 山 女 白 山 岳 邕 邕 慧 雙 中  
 柳 聖 花 崔 梅 一 其 之 騎 我 焉 培  
 塢 尚 因 雙 徑 松 紅 亭 川 克 估 危

四

四十三

里 竹 人 行 人 柴 人 柳 布 石 外 如 松 月

月 警 海 挂 危 月 大 天 湖 瓶 周 出 海

警 山 少 下 玉 柏 地 李 明 卜 山 挂 溪 河 晓

米 友 文 海 己 朗 转 布 水 招 高 素 山

子 黎 麦 洋 衣 栗 志 女 秀 荷 布 山 唾 氏 鬼

岳 山 行 史 梅 危 司 行 茶 晓 社 入 義 香 已 缺 陶 幢

市 月 山 家 藉 橙 布 川 一 水 月 旗 一 水 玉 英 色 德

吴 望 料 挂 乙 渡 宋 贺 未 来 文 山 文 山 莫 蕊

荷 鬼 扇 丈 秀 明 挑 柳 上 总 柳 塘 松 史

石 乐 揉 石 麦 畝 花 菱 只 乐 白 兮 挑 洞 木 公 知 足

6

四 五

四 五

白老 江波 善山 李亨 河旌 系作 栢明 望艾 右息 休人  
法四 林坡 奇行 查固 秀六 日丈 文招 笑洞 才江 於皇  
右甫 立芽 去玉 一秀 总蜀 嶠一 茶丘 栢村 住晚 新技 栢中  
如水 卓丈 宁玄 玄和 月危 晚艱 雪鸥 秀燕 林燕 喝个 可老  
栢坡 莫年 一桂 古雪 媽巷 寸莖 尺行 鳳兮 休鳩 文路 楚川  
三

警身 松尖 里惠 斗和 規海 韶玄 栢文 东林 游尾 亨友 陸深 右甚  
毫集 斗二 系珠 东鞋 超象 右殊 二麻 陵山 梳晚 怡人 亨涯  
白二 水折 国来 望收 加贺 台河 菊水 松功 抱山  
柳年 文亮 南溪 紫洞 小因 丹炭 大菱 甫山 布砾 信自 幽厚  
之者 岁补 文卷 栢旌 木直 贝山 柳壺 李溪 三二 可亨 其角

吉 志 梅 仙 木 粒 忠 苑 升 殆 孤 已  
 沈 慈 女 香 尾 石 姓 旌 新 及 林 陵  
 一 阳 杜 左 白 花 斗 菱 乘 奇 东 古  
 概 外 陵 操 部 阳 着 竹 昔 松 兔 一  
 完 招 招 羲 孝 周 挂 九 用 芝 柔  
 甫 三 煌 光 子女 忧 秋 集 种 海 山  
 文 梅 石 一 之 五 仙 公 挂 收 心 乙  
 表 叟 尾 笑 姓 邑 林 英 肩 支 宜 良  
 三 慈 菱 梅 屋 之 之 秋 他 梅 菱 依  
 岸 香 来 山 文 是 林 孝 了 蕊 山 波

伟 柯 宗 孤 柳 吻 东 慈 东 至 鲁 慈  
 文 凌 三 濤 崖 谷 明 路 邱 乙 朴 芥  
 象 柱 昔 支 应 梅 以 安 卜 里 款 曼  
 山 山 水 耕 白 山 湖 植 少 坊 山 里  
 真 孤 甫 植 毫 右 五 乙 杰 亦 仙 豪  
 乙 舟 山 白 温 傲 木 气 兮 汀 火 象  
 素 芦 广 省 川 中 赤 文 萝 依 柔 之  
 里 舟 舟 耕 慈 崎 萝 带 芽 山 屋 月  
 警 和 柔 波 有 尔 林 里 茂 逸 屋 花  
 然 当 思 丈 色 河 外 地 浮 江 望 慈



石 丹 其 其 奇 玄 史 穎 打 孤 未 夢  
火 山 奇 川 原 白 甫 涼 岑 不 名  
番 周 熱 曉 為 佳 原 榮 洗 爭 孤 未 夢  
丘 那 白 梅 沈 長 枝 高 意 意 歲 依 名  
真 倚 所 故 玉 梅 以 所 故 葉 葉 佳 月 字 均 月 磨 大 奔 中 象 一

石 丹 其 其 奇 玄 史 穎 打 孤 未 夢  
火 山 奇 川 原 白 甫 涼 岑 不 名  
番 周 熱 曉 為 佳 原 榮 洗 長 枝 高 意 意 歲 依 名  
丘 那 白 梅 沈 長 枝 高 意 意 歲 依 名

石 丹 其 其 奇 玄 史 穎 打 孤 未 夢  
火 山 奇 川 原 白 甫 涼 岑 不 名  
番 周 熱 曉 為 佳 原 榮 洗 長 枝 高 意 意 歲 依 名  
丘 那 白 梅 沈 長 枝 高 意 意 歲 依 名

石 丹 其 其 奇 玄 史 穎 打 孤 未 夢  
火 山 奇 川 原 白 甫 涼 岑 不 名  
番 周 熱 曉 為 佳 原 榮 洗 長 枝 高 意 意 歲 依 名  
丘 那 白 梅 沈 長 枝 高 意 意 歲 依 名

石 丹 其 其 奇 玄 史 穎 打 孤 未 夢  
火 山 奇 川 原 白 甫 涼 岑 不 名  
番 周 熱 曉 為 佳 原 榮 洗 長 枝 高 意 意 歲 依 名  
丘 那 白 梅 沈 長 枝 高 意 意 歲 依 名

四  
四

石 丹 其 其 奇 玄 史 穎 打 孤 未 夢  
火 山 奇 川 原 白 甫 涼 岑 不 名  
番 周 熱 曉 為 佳 原 榮 洗 長 枝 高 意 意 歲 依 名  
丘 那 白 梅 沈 長 枝 高 意 意 歲 依 名

石 丹 其 其 奇 玄 史 穎 打 孤 未 夢  
火 山 奇 川 原 白 甫 涼 岑 不 名  
番 周 熱 曉 為 佳 原 榮 洗 長 枝 高 意 意 歲 依 名  
丘 那 白 梅 沈 長 枝 高 意 意 歲 依 名

石 丹 其 其 奇 玄 史 穎 打 孤 未 夢  
火 山 奇 川 原 白 甫 涼 岑 不 名  
番 周 熱 曉 為 佳 原 榮 洗 長 枝 高 意 意 歲 依 名  
丘 那 白 梅 沈 長 枝 高 意 意 歲 依 名

石 丹 其 其 奇 玄 史 穎 打 孤 未 夢  
火 山 奇 川 原 白 甫 涼 岑 不 名  
番 周 熱 曉 為 佳 原 榮 洗 長 枝 高 意 意 歲 依 名  
丘 那 白 梅 沈 長 枝 高 意 意 歲 依 名

石 丹 其 其 奇 玄 史 穎 打 孤 未 夢  
火 山 奇 川 原 白 甫 涼 岑 不 名  
番 周 熱 曉 為 佳 原 榮 洗 長 枝 高 意 意 歲 依 名  
丘 那 白 梅 沈 長 枝 高 意 意 歲 依 名

四  
四

尋 尋 袋 危 吳 卷 水 日 年 木 者  
化 仙 一 行 風 一 水 向 年 母 葉

閑 望 三 秀 万 司 玄 双 白 一 悠  
乞 精 子 何 古 外 子 鳥 漢 路 々

曾 景 水 古 於 新 波 吟 明 年 肥  
徑 周 鶴 厝 推 了 日 龍 水 个 源

岳 立 陳 石 平 素 吾 梅 山 九  
陰 躬 良 壽 府 乃 心 且 來 壘

羨 區 東 乙 息 銀 梳 梅 美 非  
山 八 畫 平 佩 袋 已 士 漆 然

山 正 个

总 正 嶽 三 穎 對 坡 急 其 伊 德 派  
泥 壽 北 梁 山 月 至 戎 雀 厝 厝 藻

一 止 兔 白 臺 少 蕪 岸 益 今 画  
史 行 白 當 過 童 女 已 濟 直 挂 是 亦

岳 畫 在 梅 梅 去 然 夫 相 冬 木 松  
二 指 於 志 汁 機 當 榜 居 義 長 子

洗 有 招 李 及 古 常 周 旭 墨 氣 柏  
為 友 考 源 牛 伏 居 可 子 沈 舟 石

靜 采 寸 蕪 瓦 元 葵 象 古 竹 黛 井  
欣 當 長 園 史 皇 外 外 屏 岸 鏡

銘録去為

出為

中樂

聖樂

信儀

己明

行秀

捲外

栞風

後序

扶桑

秋海

嘉永五壬子年冬

發行

書林

京四條寺町東天

近江屋利

助

江戸本石町十軒店

英大

助

叟北上之町

具足屋重兵衛

大坂心弁橋博勞町角

河内屋茂兵衛

同心弁橋筋本町角

河内屋藤兵衛

書林

錢林

嘉本五十五平分

阿内呈

阿内呈

具呈

英大

应呈

京四茶



Handwritten notes or signatures at the bottom right corner.

